

令和6年度 決算審査

未来羅針盤プロジェクトは 市民本位で進めるべき

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目
59番地
Tel 24-2021
Fax 24-2049

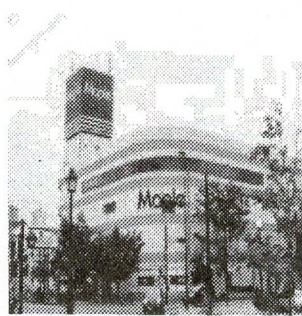
奥州市議会9月定例会の目玉は、令和6年度の一般会計・特別会計の決算を審査し認定の是非を問うものでした。日本共産党奥州市議団は、各決算の審査にあたり、市民福祉向上の立場から、積極的に質疑し、態度を表明してきました。今回より、部門ごとの決算審査の内容についてお知らせします。

【政策企画部門】

千葉敦議員は、市長肝いりで進められている未来羅針盤プロジェクトについてどのように総括しているか、質しました。

プロジェクトの具体的な取組がスタートしたことは大きな成果

市当局は、各プロジェクトの進捗状況はそれぞれ異なると述べたうえで、具体的な取組がスタートしたことは大きな成果であり、市民のみなさんとワークショップなど数多く取り組む中で市民の関心の高さを、参画したという思いを受け取ってきた。今後もこのような取組を継続していきたいと述べました。

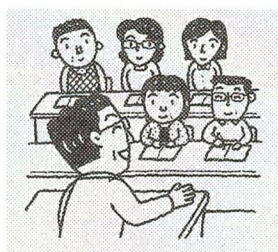


にぎわいを創出する
施策を市民とともに！

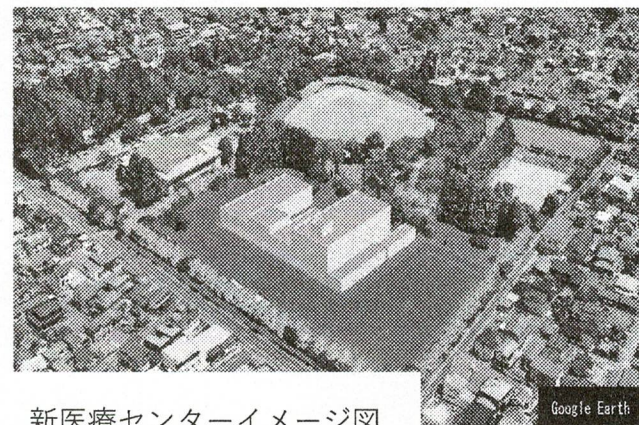
メイプル、新医療センターなど 市民の理解が進んでいないのでは

千葉議員は、メイプルや新医療センター建設について、補正予算等で修正動議が出されるなど議会だけでなく、市民理解が進んでいない状況を指摘し、見解を質しました。

プロジェクトへの投資効果など 十分に示し切れていない



市当局は、プロジェクトを実施することによってどんな効果があるかなど、十分に示し切れていないと述べ、直接市民と懇談する機会を大切にしながら、多角的な情報発信の工夫をしていきたい、と述べました。



新医療センターイメージ図

【総務部門】 職員の削減は限界… 増員が必要では

瀨川貞清議員は、総務部門で職員の働き方の現状について問題点を指摘し、「定員管理計画は、856人から出発して829人にする、というものだった。しかし実際には、減らずどころか逆に増えている。第2次の目標は令和11年4月1日860人であり、それぞれの職場で人が足りないという声が蔓延している。職員を増やす政策に切り替えるべきではないか」と当局を質しました。

今の職員数は維持していく 必要はある

市当局は、指摘の通りであることを認め、「基本的にはこれ以上の職員削減はしないで、そ

の中でいろんな業務の繁忙さで強化しなければならないところ、で人数や組織を回しながら適正に配置していくという形になる。今の職員数は維持していく必要がある。無理やり現職員の減は行わないという状況になっている」と述べました。



【財務部門】 滞納者の生活を圧迫するような 差し押さえはすべきでない

千葉敦議員は、市税・国保税等の差し押さえについて、「債権の取り立てにあたっては生活費に食い込むことはあってはならないと考えるが、実態はどうなっているか」と質しました。

まずは納税相談に つながるよう努める

市当局は、「年金や生命保険、売掛金については生活費に直結すると認識している。生命

保険については、貯蓄部分換価という形で優先順位は低いと考えている。預貯金については、財産調査で市税に充当できるかどうか調べている。売掛金については、同様に差し押さえの優先順位は高いものではないと判断している。まずは納税相談につながるよう努めている。また、長期債権の一元化について昨年度から組織再編の話があり、総務等で交渉している」と述べました。



しんぶん赤旗
ぜひ広げてください♪

